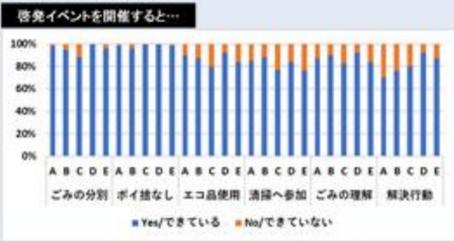


山陽学園高等学校 地歴部

シビック・テックで市民を海洋ごみ問題の解決者へ！

1. 現状と課題

海洋ごみ問題の解決に向けた私たちのこれまでの活動は…



啓発イベントへ参加した市民の意識調査結果 (※A~Eはイベントの種類を示す)

リピーターや問題を自分事として捉える高い意識を持つ市民、行動力のある市民が参加
本当に解決できるのか？ 解決には「市民」の力が必要

「場所」「回数」「参加者」「人数」「意識」が限定

市民全員がごみの廃棄者



市民全員が問題の解決者

★私たちの挑戦

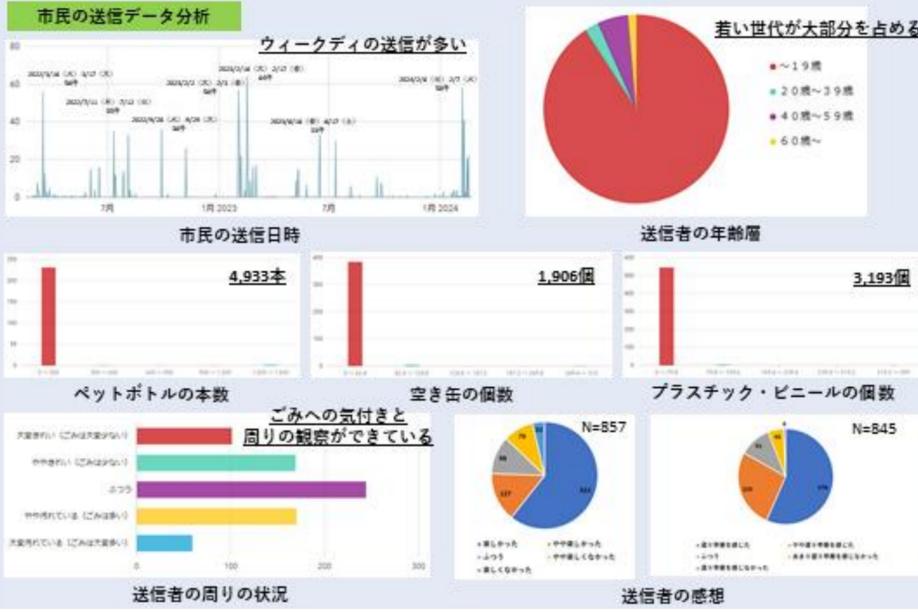
- ①市民を巻き込んだ「市民協働」の取り組み ⇒ **誰でも**
- ②市民が取り組みやすい仕掛け作り ⇒ **簡単に**
- ③市民の海洋プラスチックごみ問題への「解決貢献意識」「美化意識」の醸成 ⇒ **遣り甲斐**

1人の100歩ではなく100人の1歩の取り組み

★Point ①市民協働 ②シチズンサイエンス ③ICT×SDGs

3. 市民協働活動

1,050名の参加者 約36,000個のごみ調査回収を実現



2. 実践方法

シビック・テックの利用

シビック・テック【Civic Tech】… 市民自身（Civic）がテクノロジー（Tech）を活用して、社会課題を解決する取り組み
(例) 市役所のwebサイトへ市民が壊れた街のガードレールの写真撮影をして、投稿して、市役所は情報提供から迅速な改善につなげる

使用するテックは…「スマートフォン（スマホ）」
【理由】①あらゆる世代が利用可能 ②生活の中での必須アイテム ③いつでもどこでも使用が可能 ④ゲーム感覚で取り組める

シビック・テックを活用した実践

課題 1.問題への意識と関係性の希薄さ 2.活動へのハードルの高さ、入口の狭さ
目的 1.問題解決への貢献意識の醸成 2.ゲーム感覚で楽しめる、〇〇の合間ができる



- 私たちのアプリのここがすごい！
- ①アプリはサインイン等の個人情報入力なし
 - ②スマホで「いつでも」「どこでも」簡単に入力可能
 - ③カメラ・GPS等のスマホ機能を有効活用
 - ④off-lineも使用可能（学校教育でも利用可能）
 - ⑤簡単に問題解決に貢献できる
 - ⑥データを「見える化」して市民へ還元できる



4. 成果と今後の発展

Before 飲み干す前は大切なもの
After 飲んだ後はただのごみ
1個のペットボトル → 約15,000個のマイクロプラスチック
移動する → 小さくなる → 見えなくなる → 拾えなくなる → 深刻化



★シチズンサイエンスで海洋ごみ問題解決★
①市民が「シビック・テック」で収集したデータが課題解決の基礎データになる！
②市民協働による実践と遣り甲斐で「市民が解決者」へ！